特集

# 豊かな海づくりを目指して

## ～漁業者自ら参画した磯焼け対策～

### 深刻化する磯焼け

磯焼けとは、沿岸の岩礁や転石地帯に石灰層が付着することにより、ウニやアワビなどの餌料となる有用な海藻類が繁茂しなくなる現象のことです。

30年以上も前から見られるようになったとされるこの現象は、全国の沿岸で近年進行しており、北海道の日本海沿岸では特に深刻化しています。原因については、長年にわたる国や道の試験研究機関での様々な調査研究によって、海水温の上昇、海水の貧栄養化、ウニの食害などが考えられていますが、はっきりとしたことは現在もわかっていません。

今回は、美国地区の漁業者自らが、新たな磯焼け対策の手法に挑戦を始めた取組みについて紹介します。

―美国町茶津地先の磯焼けが比較的進行してない海底のコンブの繁茂状況―

### 磯焼けになるとどうなるの？

コンブやワカメなどの海藻は海水をきれいにしたり、魚の産卵場になったりしています。またウニやアワビなどの浅海資源は、コンブなどの海藻類を食べて成長しています。

海藻類が繁茂しない海では水が汚れ、ニシンやハタハタなど魚の産卵場がなくなり、貴重な浅海資源であるウニやアワビも餌が少なく成長することができません。

## 自らの知恵と協働の力で

### 立ち上がる漁業者

―美国・美しい海づくり協議会設立―

広い海で磯焼けとなった藻場を再生することは容易ではありません。

美国地区での磯焼け対策は、それまでのウニ・アワビの種苗放流による資源増大対策と合せて、コンブの養殖事業や海中林の造成など、昭和50年代から漁業協同組合が様々な事業を実施してきました。当時260人いた組合員は現在3分の1以下に減少し、高齢化も進んでいることに加え、町と漁協の財政悪化から新たな漁場整備対策事業の実施も難しい情勢となっています。

**「自分たちのできることから何かしよう。」**と立ち上がった美国地区浅海部会と同地区青年部を中心とする漁業者は、美国地先を利用しているレジャーダイバーの協力により、新しい手法による対策に取組むため、漁業者・漁協・レジャーダイバーを構成員とする**『美国・美しい海づくり協議会』**（会長：神哲治東しゃこたん漁協副組合長）を平成20年4月に発足させました。

協議会の役員でもある**東しゃこたん漁業協同組合の鎌田専務理事**は、「漁協・漁業者・レジャー

ダイバーそれぞれが役割を担い協働することで新しい磯焼け対策の可能性が広がる。」とこれからの活動に期待を寄せます。

## 懸命に続いている研究
### ―見つからない「特効薬」―

全国の沿岸に広がり、特に日本海側で著しく進行している磯焼けの対策として、後志管内の他町村では、**鉄鋼スラグによる鉄分の供給、施肥、海藻種苗の投入など**様々な取り組みが行われています。しかし、微妙に異なる海況条件や懸命に続く専門家の研究にも関わらず、磯焼けの原因究明と決定打となる磯焼け対策の「特効薬」を見い出せないでいるのが現状です。

**道内の他町村で取り組まれている主な磯焼け対策**

| 主な実施手法 | | 実施地区 |
|---|---|---|
| 施肥 | 魚粕、液肥、無機肥料など | 泊村、八雲町 ほか |
| | 鉄鋼スラブ | 寿都町、増毛町 ほか |
| | イカゴロ | 乙部町、上ノ国町 ほか |
| 生分解性素材(農産系廃棄物シートなど) | | 神恵内村、江差町 |
| 母藻投入 | | 神恵内村、知内町 ほか |
| 石灰藻剥離 | | 泊村、島牧村 ほか |
| 海中林 | | 岩内町、余市町 ほか |
| 漁場造成 | | 羅臼町 |
| ウニ除去移殖 | | 寿都町、留萌市 ほか |

## ウニが海藻を食べ尽くす？漁師の目で確かめたい！
### ―新しい取組みに挑戦―

「昔ここには、8月頃までホンダワラが生い茂りウニを採るのも大変なくらいだった。」と**神会長**が指さす茶津海岸の岩礁にも白い石灰層が目立っています。以前のような豊かで美しい海を取り戻すため同協議会では、

**①食害生物(ウニ)の除去移殖**
**②栄養塩類の海への供給**
**③母藻の投入設置**などの取組みを計画しています。

平成21年度は、主にウニの食害説を立証するため、調査試験区を設定してキタムラサキウニを海藻の繁茂が良好な海域に移植し、海藻の再生具合を探るウニの除去を行っています。

ウニは、海水温が一定以下の低水温であれば給餌量も減少することがわかっていますが、近年の海水温の上昇により活動期間も長くなり、着生したばかりの海藻を食べてしまうことが、磯焼けの原因の一つではないかとも考えられています。

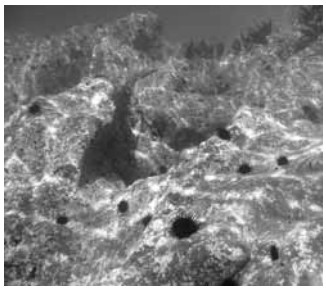
知事の許可を受け、漁業者や一般のレジャーダイバーがタモを手に潜水し、波に体を揺られながら、ウニの侵入を防ぐ網状のフェンスで区画した調査箇所の海底のウニをひとつひとつ拾い集め別の箇所へ移植します。

2月12日現在までに合計14回延87人により約2haの除去移殖作業が行われました。

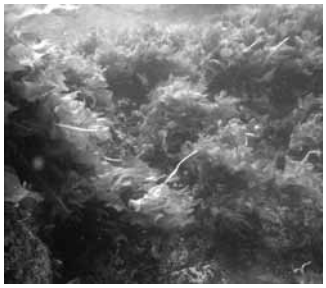
「冬の海での過酷な作業だったが、たくさんのレジャーダイバーの皆さんの協力を得て一緒に潜ることができたので、これだけの成果を上げることができた。」と**白川浩治浅海部会長**はレジャーダイバーとの協働作業の成果について力強く語ります。

除去作業が行われ、キタムラサキウニのいなくなった調査区では、既に海藻の繁茂が見られるなど漁業者の目で見る効果も確認されてきています。

このほか海藻の成長を促すための栄養塩類の海中への供給や、ホンダワラなどの海藻が自然に着生し成育するための母藻を調査区に投入するなどの試みが計画されています。



▶除去作業前



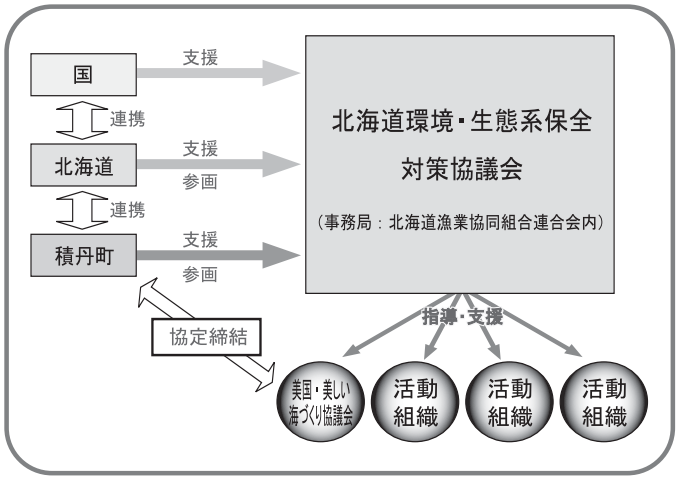
▶除去作業後
ワカメの着生を確認

## 国・道・町も活動を支援

水産庁は、全国的な磯焼けの拡大を受け、藻場の機能回復を図るために平成21年度から5年間継続してモデル的に**環境生態系活動保全事業**を展開します。

当町での漁業者による新たな活動は、この事業の採択を受け、茶津地区や厚苫地区の約12haで事業を実施することになりました。

5年間の総事業費は約2，850万円で国1／2・北海道1／4・積丹町1／4がそれぞれ負担し支援します。



## 積丹らしさを生かした漁業振興への挑戦

### 観光資源の〝積丹ブルー〟が生み出す
**―漁業との共存に期待―**

レジャーダイバーは、海洋環境の保全への関心が高く、こうした社会貢献活動への参加意識の高い人が少なくありません。

また、レジャーダイバーと漁業者が協働して磯焼け対策に取組む事例は全国的にも珍しいことから、水産庁や北海道、漁業団体からも注目されています。

海中公園に指定され透明度が高くきれいな海に、多くのレジャーダイバーが集まる当町の好条件を活かし、悪質なダイバーによる密漁の抑止効果や、漁業と観光業との連携による地域振興への貢献も期待されています。

**神哲治会長**は、「浅海漁業を取り巻く環境が一層厳しくなる中、漁業振興策の一つにもつながるレジャーダイバーの皆さんの協力は大変ありがたい。

藻場の再生が果たす役割は広く大きい。沿岸域の環境保全にとっても重要なもの。

磯焼けの原因究明と対策の手法の一つとして成果も見えてきており、今後が楽しみ。漁業資源の維持増大による漁家経営の安定のために、ぜひ漁業者自らが取り組むこの活動を継続したい。」と抱負を語っています。

### 「森と川と海」を育て守る活動も
**―積丹支所青年部・女性部―**

東しゃこたん漁協積丹支所青年部・女性部が中心となり、地域住民や小学校が余別川流域で地域ぐるみで取り組んでいる植樹・育樹運動や保護河川の保全学習活動など、森と川と海を結ぶ様々な自然環境保全活動も海の磯焼け対を進めていく上で大きな役割を担っており、私たちはこうした協働のまちづくり運動の輪を一層広めていきたいものです。

## 平成22年 第2回町議会臨時会

平成22年第2回町議会臨時会が2月16日招集され報告1件、議案1件が審議可決され、同日閉会しました。

### 審議された案件

**報告第1号**
**専決処分の承認を求める件について**

（平成21年度積丹町一般会計補正予算・第10回）

国土交通省の地域活力基盤創造交付金6，300千円の助成を受けて、老朽化の著しいスクールバス（29人乗り）1台を購入するなど総額6，460千円の予算の追加補正を行ったものです。

**議案第1号**
**財産の処分について**

水中展望船の減額譲渡について、㈱積丹観光振興公社に町が所有する水中展望船を町が修理することなく現状のままで公有財産価格より減額して売払（5，932千円）する契約を締結するため、地方自治法第96条第1項第6号の規定により議会の議決を得るものです。